関西現代俳句協会会報
No. 43
2014.10.1

が集まった。中でも会員外の投句者八四名から、三一八句が寄せられたのは有り難かった。会員減少著しき現状においてのこの成果は、会員及び役員の皆様のご協力の賜物と感謝に耐えない。既に決定している来年の第五回俳句大会につなげて行きたい。

第四回『関西現代俳句大会』開催

――二八六名の皆様から、一三三八句――

第四回関西現代俳句大会は去る四月一九日（土）、大阪市中央区のホテルヴィアーレ大阪において、応募者二八六名、投句数一、三三八句の参加を得て、併催の理事会・総会・懇親会と共に盛大に開催された。今年は第三回俳句大会から二年の空白の後の開催だったが、ほぼ目標に近い作品

第四回　関西現代俳句大会　入選句　（計　十三句）

大会賞（一位）

道草の始めは風のねこじやらし　北岡　ゆみ（群　蜂）

秀逸賞（三位）

おのずから正面ありて鏡餅　橋場　千舟（半　夜）
ふるさとに来ても旅人冬帽子　鈴木　順子（京鹿子）
芒原一人づつ来て老人に　千原　恭子（草　樹）
薪を割る山の寒気を真二つ　村松　桂子（京鹿子）
新涼や月も地球も浮かぶもの　松島　圭伍（獅　林）

入選賞（三位）

水はただ水を追いかけ十二月　小池万里子（暁）
山眠る期限の切れた常備薬　桑田　和子（暁）
人なべて海より来たり雲の峰　樋本　和恵（草　樹）
茶柱の立つて勤労感謝の日　樋本　和恵（草　樹）

春昼や黙がごろんと犀になる　三好つや子（海　程）
草の花束ねて彩の生まれけり　津野　洋子（京鹿子）
拭きこみし鏡の前の寒さかな　吉田　成子（草　樹）
（入選句は関西現代俳句協会のホームページで紹介しています）

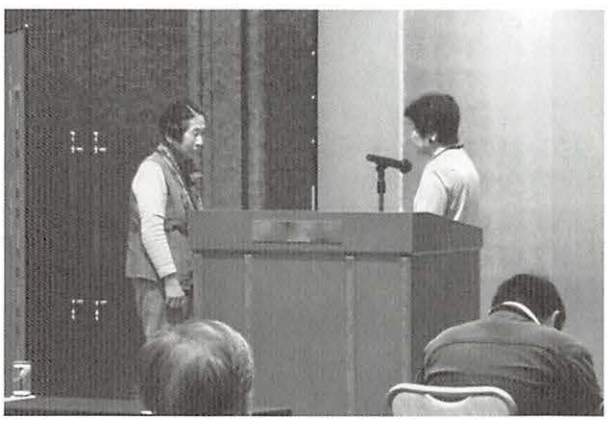
俳句大会の詳細について

第四回俳句大会は二年間のブランクがあった割には、お陰さまでまずまずのご投句を頂きました。その数は第三回を上回ることは出来なかったものの、参加人数は二八六名となり、投句総数は一三三八句に達しました。

これらの句を直ちに作者無記名の「選句稿」にまとめ、二十一名の各選者に送付しました。選句は一人三十句とし、今回は選者特選賞は設けませんでした。

会員の皆様はじめ、俳句愛好家の皆様の俳句に寄せる熱意と、この会への熱いご支援に対し改めて感謝を申し上げると共に、ご多忙中にも関わらず快く選者をお引き受けいただいた方々にも、また、類似句の調査にご協力下さった現代俳句協会事務局のお力添えにも、厚くお礼を申し上げる次第です。

俳句大会は上藤おさむ事務局長の司会に始まり、吉田成子会長は『関西現代俳句大会は前会長はじめ前役員のご尽力により平成二十一年に始まりました。今回は第四回大会で、この間中断もありましたが、春の総会のあとは俳句大会が慣わしとなり、年末の句集祭とともに協会行事の二本



柱ともいうべき存在になっています。今後はさらに充実した内容にすべく計画しております。』との挨拶がありました。

引き続き杉浦圭祐氏の披講、入選者発表のあと吉田成子会長より各入選者の表彰があり、最後に各選者による講評が行なわれました。

栄えある大会賞を獲得された北岡ゆみ氏。以下秀逸賞五名。入選賞七名の計十三名に吉田成子会長より賞状と副賞が授与されました。最後に選者による講評で大会を締め括りました。

なお俳句大会の選者は協会の理事及び各結社の代表者を中心とした次の方々にお願いしました。（五十音順）

赤尾恵以（渦）・伊丹三樹彦（青群）・宇多喜代子（草樹）・尾崎青磁（燕の会）・久保純夫（儒艮）・小泉八重子（季流）・鈴鹿仁（京鹿子）・高橋将夫（槐）・谷口洋（駅）・谷下一玄（半夜）・豊田都峰（京鹿子）・豊長みのる（風樹）・花谷清（藍）・日原輝子（頂点、花筐）・的場秀恭（獅林）・室生幸太郎（暁）・森田智子（樫）・吉本伊知朗（斧）・若森京子（海程、船団）・和田悟朗（風来）・吉田成子（草樹）の二十一名の方々です。

以上で大会は滞りなく成功裡に終了しました。多数の皆様のご協力に深く感謝いたします。

（事務局）

事務局からのお願い

※会員の句集、著書について

会員の皆様が上梓された句集や著書は関西現代俳句協会のホームページでご紹介していますので、事務局へ一冊ご寄贈いただきますようお願いします。

なお事務局の住所は次の通りです。

〒六一九―〇二二四
木津川市兜台五―一―十三　木津かぶと台
十四―一〇一　上藤（うえふじ）おさむ方
関西現代俳句協会事務局

※会員の訃報について

会員のご逝去は、ご家族や会員の皆様からのお知らせにより、東京の協会本部に連絡させていただいていますので、お知合いのご逝去は事務局へご一報ください。

忘年・句集祭のお知らせ

この会報に本年の「忘年・句集祭」のご案内と参加申込みのハガキ、並びに句集出展の申込み用紙を同封しています。

申込みの締切りは十一月五日です。

多数のご参加をお待ちしています。

今後に向けて

関西現代俳句協会
会長　吉田　成子

年々集中豪雨が多発し、今夏は関西地区にも甚大な被害をもたらしました。幸い会員の皆様には格別な被害など無かったようで何よりと存じます。

さてご承知のように現代俳句協会は六十五周年を記念して会員の増加を図るべく、今年度の入会者に限り入会金を免除しています。これについては当関西現代俳句協会でも今春の総会でお知らせするとともに新会員獲得へのご協力をお願いしましたが、お蔭を持ちまして八月末現在四十四名の入会がありました。

例年に比べるとかなり多い人数になっています。しかし年々退会者が増え、近年はその数が入会者を遥かに上回るという有様です。今年度は今のところ入会者とほぼ同じ人数にとどまっていますが、年度末までには退会が増えるおそれがあります。入会金免除の期間は本年十二月末までですからあと僅かですが、役員一同新会員獲得に向けて努力を重ねています。会員の皆様にも周囲の俳句愛好者に是非入会のお勧めをしていただきたくお願いします。

会員の減少を図るためには在籍会員の退会を食い止めることも大切です。退会者の殆どは死亡あるいは高齢で体調も悪く俳句どころではないという人達です。しかしなかには当協会に魅力がないと感じておられる人もあるでしょう。この点も改善すべく力を注ぎたいと思っています。

協会の関西の拠点としてのお世話を引き受けて一年半が経ちましたが、昨年末の「忘年・句集祭」、今年春の総会並びに「第四回関西現代俳句大会」も大過なく終えることが出来ました。新任として戸惑うことも多々ありましたが、俳句大会では案じていました投句数も予想を上回り、大変嬉しく存じました。会員の皆様の厚いご支援のお蔭と感謝しています。

今後は例年の行事の更なる充実を図り、出来るだけ多くの会員に参加して頂けるようにしたいと思っています。又新しい企画も盛り込み、会員各位に親しみを持っていただける会を目指して参ります。

関西現代俳句協会事業報告

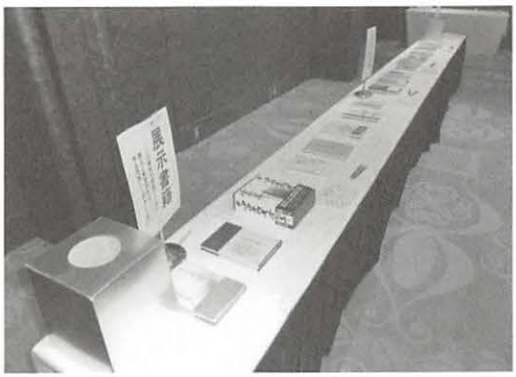
平成25年7月～26年6月

会長　吉田成子

◆忘年会&第三十八回句集祭

恒例の「忘年会&句集祭」を昨年十二月七日（土）に開催した。場所は大阪船場の中心にあるホテルヴィアーレ大阪である。参加者は六十八名。

句集祭では過去一年間に会員によって上梓された句集やエッセイ、文集などが十八点寄せられた。昨年に続き宇多喜代子顧問や豊田都峰顧問に加え的場秀恭副会長などの出展もあり、非常に充実した句集祭であった。出展者の作品は、尾崎青磁氏による揮毫により会場内のぐるりを飾った。閉会の挨拶は若林京子副会長。句集はその人の分身である。句集を出した人はみな満足して清々しい表情をされている、と締めくくられた。



◆平成二十六年度理事会・総会

平成二十六年四月一九日（土）ホテルヴィアーレ大阪において二十六年度の理事会・総会を開催した。

出席者は理事会二十二名・総会六十二名・俳句大会七十二名・懇親会六十二名であった。総会は六十二名の出席と四百五十九名による委任状提出で成立した。総会は議長に選出された的場秀恭副会長の進行で審議された。何れも理事会の審議事項と変わらず、満場一致の拍手で可決された。

（議案及び報告事項）

第一号議案　平成二十五年度事業報告
第二号議案　平成二十五年度会計報告
第三号議案　平成二十六年度事業計画
第四号議案　平成二十六年度予算案
第五号議案　関西現代俳句協会規約の一部変更

理事各位に改正案の文面を配布し検討の結果、満場一致により承認された。これに伴う役員の変更についても満場一致により承認された。従って、室生幸太郎副会長は八十歳定年により顧問に、高橋将夫理事は副会長にそ

れぞれ就任された。

（報告事項）

①第十四回現代俳句大賞　宇多喜代子氏受賞
②第二十九回詩歌文学館賞　柿本多映氏受賞
③第四回芝不器夫俳句新人賞　曾根毅氏受賞
④東京通常総会の内容について

A．第五十一回現代俳句全国大会（名古屋）への協力。
B．会員減少の一環として、入会金の免除について。
創立六十五周年を契機に新会員の増加を図るため、平成26年1月から12月までに入会した方に限り、入会金一万円を免除する。後期（7月～12月）入会者は年会費五千円だけで入会出来る。これについて各支部への協力要請がありました。

○青年部の活動について

一、関西現代俳句協会ホームページ内の青年部ページを平成二十五年八月～毎月定期更新を開始しました。毎回三名（作品十句）とショートエッセー（青木亮人：平成二十五年八月～二十六年二月、中本真人氏：二十五年三月～）を掲載しました。

【目的】

A．関西現代俳句協会のホームページ閲覧数の向上。
B．青年部員を中心とした若手の作品発表の場の提供。
C．青年部の活動報告並びに開催予定イベント告知。

二、現代俳句協会青年部機関紙「インサイトゥー」の企画・編集。二十六年三月二十五日に発行しました。平成二十四年十一月に京都で開催されたシンポジウム「洛外沸騰～今、伝えたい俳句　残したい俳句」での話題をベースに出版しました。

【目的】

A．青年部員の協会への帰属意識の向上。
B．シンポジウムに参加出来なかった方々への情報提供。
C．青年部の活動ＰＲ。

三、勉強会＆句会の開催。平成二十五年十一月に北海道から五十嵐秀彦氏を招いて「いまさら座？いまこそ座？～地方の座の再興を通して、本来の座の意味を考える」について勉強会を開催。平成二十六年三月十五日に東京から西原天気氏を招いて「『週刊俳句』的～ウェブマガジン創刊と持続」について勉強会を開催しました。引き続き句会を開催、久保純夫氏、花谷清氏が選者となり盛会のうちに終了しました。因みに当日の出席者は、ゲストとして迎えました吉田成子会長を加え合計四十名となり、投句数は七十八句でありました。このように、青年部は三木基史青年部長の積極的な活動により協会を盛り上げています。今後益々の活躍が期待されています。

◆会報の発行

第四十二号　平成二十五年十月一日

（事務局）

関西現代俳句協会規約

第一章　総則・目的・事業

第一条　この会は、関西現代俳句協会といい、事務所は事務局長宅に置く。

第二条　目的および事業は現代俳句協会（以下、協会という）の規約に則ってこれを行う。なお、事業に関しては、他に関西の地域性に鑑み重要と判断されるものについては、理事会の過半数の賛同を得て会長がこれを行うことが出来る。

第二章　会員及び役員

第三条　この会の会員に関する事項は、協会の規約によるものとする。

第四条　この会には次の役員を置く。

一、会　　長　一名　二、副 会 長　若干名
三、理　　事　二十名程度（役員含む）
四、事務局長　一名　五、経理部長　一名
六、企画部長　一名　七、広報部長　一名
八、青年部長　一名

なお、会長、副会長、事務局長、経理部長、企画部長、広報部長、青年部長は理事に含まれる。

九、会計監査　二名

第五条　第四条の役員の選任については、会長が推薦し、理事会および、総会に於いて過半数の議決を得るものとする。なお、理事は当会に所属する俳句会の主宰並びにそれに準ずる者より会長が推薦し且つ会長が委嘱する。

第六条　役員の業務分担は、協会の業務分掌に準じて行う。

第七条　役員の任期は三年とする。ただし再任を妨げない。

第八条　役員に関する経費および費用の弁償は別に定める。

第九条　当会の顧問は、原則として満八十歳を超えた功労顕著な会員の中から会長が推薦し、会長がこれを委嘱する。ただし当会の会長経験者はその辞任の時を以って、年齢を問わず顧問に委嘱出来る。

第三章　総会・理事会

第十条　総会は年一回、四月にこれを開催する。その他総会に関する細目は、協会の規定に準ずるものとする。

第十一条　理事会はその必要のあるときは、随時会長がこれを招集する。重要なる提案事項並びに決議事項は、次の総会にはかるものとする。

第四章　内部組織及び所管事項

第十二条　この会の会計処理は、協会の規定に準じてこれを行う。

第十三条　この処理に関しては、会長と事務局長および経理部長がこれを行う。当会の事務処理は事務局長がこれをおこなう。事務局長および各部長は会長が任免する。なお、事務局長は総会その他の会合に於いて必要な事務局員を、会長の了解を得て依頼することが出来る。

第五章　付則

第十四条　この規約に定めのない事項は原則として協会の定めるところに準じておこなうが、地域性を主とした事項に関しては会長がこれを定める。

第十五条　この規約は、平成二十六年四月十九日から発効する。

以上

新会員の一句

今年度の、現代俳句協会に入会された関西地区の会員の方々から一句ずつお寄せいただきましたので、ご披露いたします。

（到着順・括弧内は所属誌）

山くずし全てくずしてかき氷　池田千鶴子（草　樹）
航跡の消ゆるまで振る夏帽子　田中　俊（獅　林）
まっ白な猫月光に溶けてゆく　中道　量子（　暁　）
大原女の紺着の匂ふ素足かな　山根　淑子（京鹿子）
大夕立一気に京を洗ひけり　樋本　和恵（草　樹）
入梅や祖母への薬餌吊るしおく　北田　和子
空蟬は捜す気も無き忘れ物　山本　夏石
猫じゃらし鬼の居ぬ間にはば利かす　江島　照美（　槐　）
裸婦像や犬ふぐりの野は暮れて　樽谷　寛子（海　程）
ペンライトの揺れる真夏のコンサート　尾崎加世子（　藍　）
秋晴れや磨けば光る塗の膳　三輪　敬子
弱音吐く母を許せり夜の白桃　歌川せいち（天　塚）
たなごころ丸めて触るるおほでまり　細田　義門
刑のごと四肢を伸ばして春の夜　岡本かずこ（ロマネコンテ）
秋の箱何でも入るが出てこない　星野　早苗（船団・里）
寅さんは今どこの空彼岸花　廣川　乗鉄（　鷹　）
此岸から彼岸から人風の盆　生田　昌司
金雀枝や底の割れないスケルトン　森本　突張（　藍　）
起伏まだ花野の果てへ続きけり　有松　洋子（　槐　）
雛しまふ妻の項の哀れかな　田居五十歩
拾ひたる蟬のなほ鳴く力あり　野村　朴人（獅　林）
三伏や風なき径に迷い込み　島　智津子（風　樹）
宇宙とはなすびの形かもしれず　橋本小たか（円　座）
三連の添水の響く山居かな　岩下　芳子（　槐　）
天の川星にたくして莨の火　米田　武文（草　樹）
引き潮の藻屑ただよう大西日　河添　眞記（　藍　）
秋の風ハルカスの天辺より来　山畑　河洲（うぐいす）
鷹渡る湾一枚のひろさかな　中之庄谷愛子（草　樹）
父の日や子に返礼の一行詩　常村　流生（うぐいす）
牡丹の芽森の匂の体かな　加藤　みき（槐・晨）
吟行や季語の溢るる紅葉寺　網野　米子（　藍　）
邦題がとつてもいいの日脚伸ぶ　小池　康生（銀　化）
暮残る雪の連峰神住めり　宮田　武彦（草　樹）
俎板のくぼみ緩やか冷奴　泊　義廣（　藍　）
水馬円周率を埒外に　尾崎と代子（京鹿子）
神の馬銀河鉄道渡る夢　三木冨士子（　杭　）
逆さまにものを見ている蝸牛　川崎かずえ（香　天）
告知すること憚られ百日紅　林　弘子（　樫　）
新入りは赤い癖毛の案山子かな　内田　茂（青垣の会）
城下町訪ねてみたし花の頃　楠　美智子（花　野）

今年度の入会者は、四十四名（八月末現在）でしたが、残念乍ら四名の方々は辞退されました。

関西現代俳句協会のホームページについて

関西現代俳句協会では二〇〇四年十月からホームページを開設していますが、インターネットを使用されない方にはご理解困難な点もありますので、その内容をご紹介します。

①トップページ「今月のエッセイ」
会員のエッセイ（毎月更新）。
二〇〇五年一月スタート、バックナンバーを御覧いただけます。

②協会の入会案内
入会の方法、問合せ先。

③新着情報
ホームページ開設以来の更新情報及び協会情報。

④協会の概要
関西現代俳句協会の略史、協会会報の全頁を紹介（32号より）。
活動内容（講演会、全国大会、忘年・句集祭、関西俳句大会、吟行会など）、役員構成、事務局の所在地。

⑤結社・俳誌紹介（登録のある結社）
五十音順と府県別がある。いずれも結社俳誌名、主宰・代表者名、発行所の所在地、発足年月を記載。（依頼により随時更新）

⑥会員の著作
ホームページ開設以来の会員の句集などの著書を紹介。

⑦イベント案内
協会主催の各種イベント、シンポジウム、全国大会、吟行会などの紹介。

⑧青年部ページ
青年部員の作品や、句会・勉強会・シンポジウムなどの行事案内と記録を掲載。

⑨リンク
協会関係並びに会員のホームページ（サイト）やブログへのリンクページ。

いずれのページも掲載ご希望の場合は事務局までご連絡ください。

（事務局）

謹　悼

平成二十五年八月一日より、本年七月末迄の期間中に現代俳句協会で受付けた、ご逝去会員のお名前をお知らせし、謹んで哀悼の意を表します。（敬称略。括弧内は住所と所属誌名）

記

池田　元（兵庫県・南風・藍生）
真田　白雨（京都府・玄鳥）
塚原　哲（奈良県・花象）
福井　秀子（兵庫県・鴻の鳥）
中島　砂穂（大阪府・船団）
延広　禎一（大阪府・槐）
谷口　文子（大阪府・京鹿子）
加藤　貞子（大阪府・俳句人）
八木三日女（大阪府・海程・花）
竹貫　示虹（京都府・京鹿子）
丸山　佳子（京都府・京鹿子）

平成25年度　決算報告書

平成26年４月19日

（自・平成25年４月１日～至・平成26年３月31日）　関西現代俳句協会　（単位：円）

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	1,810,452	総会費（小川軽舟氏講演代含む）	914,467
本部交付金	1,721,800	句集祭	672,838
総会費	504,000	俳句大会費	469,707
句集祭参加費	459,000	青年部活動費	267,371
青年部	44,022	印刷代	316,449
俳句大会投句料（投句数1338句）	892,000	通信費	145,676
雑収入	0	ホームページ費	120,000
		交通費	135,700
		会議費	40,577
		事務費	49,560
		役員手当	383,600
		雑費	735
		次期繰越金	1,914,594
合計	5,431,274	合計	5,431,274

三菱東京UFJ銀行普通預金 1,505,735円（利子 133円含む）
現金 408,859円
収入 5,431,274円－支出 3,516,680円＝1,914,594円
残金 1,914,594円を次年度へ繰り越します。

会計　村田あを衣

上記の通り、適正に処理されたことを認め、報告いたします。

平成26年４月12日　会計監査　西川　吉弘　辻本　孝子

平成26年度　予算

平成26年４月19日

（自・平成26年４月１日～至・平成27年３月31日）　関西現代俳句協会　（単位：円）

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	1,914,594	総会費（会場費・懇親会費）	800,000
本部交付金	1,700,000	会議費	100,000
総会費（懇親会費）	500,000	句集祭（会場費・懇親会費）	700,000
句集祭参加費（懇親会費）	500,000	俳句大会費	600,000
俳句大会参加費（投句料）	900,000	印刷費（会報・その他）	300,000
青年部活動費	50,000	通信費（郵送料・電話代）	300,000
		事務費（事務用品）	100,000
		交通費	200,000
		役員手当	400,000
		青年部活動費（講演会・句会他）	200,000
		ホームページ費	120,000
		雑費（慶弔費・消耗品代）	50,000
		次期繰越金	1,694,594
合計	5,564,594	合計	5,564,594

事務局便り

経理部

四月十九日（土）ホテルヴィアーレ大阪にて開催されました総会は六十二名の出席者があり、平成二十五年度の会計報告、同二十六年度の予算案などをご審議頂き、何れも事務局提案通り可決されました。詳しい数字は別表の会計報告をご覧下さい。

幸いにして黒字決算となりましたが、これは俳句大会開催の効果で皆様のご協力のお蔭です。しかしながら年々会員の減少が著しく、先行きが心配されます。当然の事乍ら、事務局員一同経費節約に努めておりますが、それにも増して新会員獲得の努力が大切です。そこで会員獲得のため「おひとりがお一人を」の気持ちでご協力いただけます様お願いいたします。

（経理部長　村田あを衣）

【今年度の入会金免除について】

報告事項にも載せていますが、現代俳句協会では創立65周年を契機に新会員の更なる入会を願い、平成26年1月から12月までに入会された方に限り、入会金一万円を免除しています。

これにより、後期（7月～12月）入会の方は年会費五千円だけで入会できることになります。この免除は本年12月までの入会に限りますので是非、この機会にお知り合いの俳句愛好者に入会をおすすめ下さい。

※年末までに一人でも多くのご入会をお待ち申しております。

お知らせ

当会顧問の和田悟朗氏が代表する句会「もとの会」が、解散終会するにあたり、その会費の余剰分二十五万円を関西現代俳句協会にご寄付くださいました。

ありがとうございました。

慶祝

このたび左記の方々が次の通り受賞されましたのでお知らせします。

宇多喜代子 様　第十四回現代俳句大賞

柿本　多映 様　第五回桂信子賞

第二十九回詩歌文学館賞

第十三回俳句四季大賞

曾根　　毅 様　第四回芝不器夫俳句新人賞

◆平成二十六年度の事業予定

本年十月以降来年九月までの関西現代俳句協会の行事は次の通りです。

＊会報の発行

会報四十三号を十月に発行。

＊「忘年・句集祭」

平成二十六年十二月六日（土）、ヴィアーレ大阪にて午後三時十分より句集祭、五時三十分より懇親会開催。

＊総会並びに俳句大会

平成二十七年四月二十五日（土）、ヴィアーレ大阪において総会並びに第五回関西現代俳句大会を開催します。この俳句大会の作品応募要領などは次の通りですが、この会報に投句用紙を同封していますので、出来るだけ多数のご応募をお願いします。

投句作品の締切　二十七年一月末日

投句料　三句一組　二千円

（何組でも投句できます。また会員外の投句も歓迎します）

送り先　投句用紙に記載

表彰

大会賞一名、秀逸賞若干名、入選賞若干名、ほか今回は各選者（二十三名）の特選賞を設けます。

選者名（五十音順・敬称略）

赤尾恵以、伊丹三樹彦、宇多喜代子、尾崎青磁、柿本多映、久保純夫、小泉八重子、鈴鹿仁、高橋将夫、谷口洋、谷下一玄、豊田都峰、豊長みのる、花谷清、日原輝子、政野すず子、的場秀恭、森田智子、室生幸太郎、吉本伊智朗、若森京子、吉田成子、和田悟朗

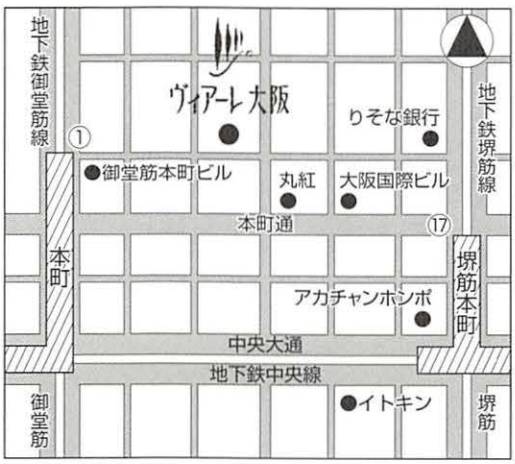
なお、総会、大会当日の詳細については何れ改めてお知らせします。

◆「忘年・句集祭」の会場について

会場のヴィアーレ大阪までの道順は、会報同封のご案内にも書いていますが念のため次の通りです。

地下鉄御堂筋線本町駅下車、一号出口を出て、すぐ東（左、堺筋方向）へ徒歩三分（左記地図参照）

なお梅田方面からは一番うしろの車輌、天王寺方面からは一番前の車両に乗車されると一号出口に近い位置です。



関西現代俳句協会会報・第43号

発　行・平成二十六年十月一日

発行人・吉田　成子

編集人・上藤おさむ

事務局・〒六一九―〇二二四
木津川市兜台五―一―十三
木津かぶと台十四―一〇一

TEL／FAX　〇七七四―七二―八五八四